



＜ 学校教育目標 ＞

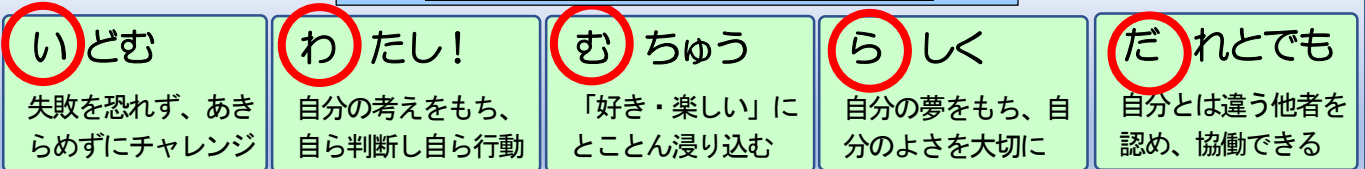
ひとりになれる ひとつになれる

※10年後に必要な力【挑む・わたし！・夢中・らしく・誰とでも】をひとりひとりに付け、子どもたちが抱く「自慢できる学校像」を広げていきます。

■ 「子どもたちから見た岩小のよさ」 (R7.3)

- ① 学年を超えて仲良し、やさしい
- ② 生活の3本柱（清掃無言、あいさつ、靴揃え）
- ③ 楓の時間（総合・生活科）
- ④ みんな元気
- ⑤ 先生がやさしい、相談にのってくれる
- ⑥ 児童会活動、メリハリ切りかえ

■ 10年後の子どもたちに必要な力 ■

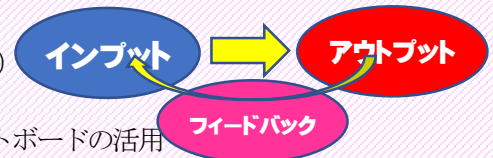


R7の核心:子どもの主体性を「探究」で育む

※キーワードは、「問い」と「アウトプット」

■取組①: 教科学習の探究化 … 学びの成果は子どもたちの「話す言葉」「書く言葉」に表われます。豊かな言葉は教室の授業の質を高めます。教師が子どもたちの言葉にこだわっていきます。

- ・導入: 子どものつぶやきから創る「問い」(かぎ・見通し)の充実
学習指導要領を手掛かりとした本時のねらいの明確化(学年会)
- ・展開: 子どもが主役の授業につながる協働的な学びの充実
「アウトプット(体を通す)」話す・書く・教える・行うホワイトボードの活用
- ・振り返り: 自分の言葉で、既習事項・日常生活・教科の見方考え方とつなげ、意味づける)



■取組②: 総合・生活科の探究化 … 学級全員で一つのことに向かい、皆でやり遂げた体験は、子どもたちの中に自分や学級への誇りを生み出します。探究のエネルギーが高まります。

- ・教師もワクワクや思いがけなさに出合う題材選定
- ・楓プラン(総合設計図)の練り上げと更新チューニング
- ・アウトプットデー(参観日をはじめ日常化を目指す)でのプロセスや成果の発表、フィードバックの充実

■取組③ 子どもたちが創る児童会・学校行事 … 行事は子どもの主体性と節を育てる重要な場となる。

- ・子どもたちの発想や願い・問いから始める行事企画(子どもが創る運動会・児童会企画など)(練習から学習へ)
- ・自分の言葉で伝えるなかよし学級連絡・児童集会
- ・取組への丁寧なフィードバックとやり甲斐の醸成

■取組④ 自分の好き・楽しいを掘り下げる「まちゼミ」 … 探究する楽しさワクワク感を実感する機会にする。

- ・子どもの「好き」「楽しい」からの講師選定、学んだことのアウトプット(実演・プレゼン発表など)を目指す
- ・岩村田の大人や保護者といった多様な大人(岩村田応援団)から学ぶ場の拡充

■取組⑤: 主体的に学ぶ意欲を育む家庭学習への転換 … 自分の関心やワクワクを深掘りできる時間に。

- ・「家庭学習」のねらいや願いの共有
- ・ねらいと振り返り、アウトプットとつなげる自分学習

ベース1: ちがいに寛容な心が育つ教室

取組① ちがいに学び合う教室

- ・自分とちがう考え・やり方・スピード・好き嫌いを知り、ちがいから学び合う学級経営。マイノリティー(少数派)を尊重できる教師。
- ・学習や学級経営の土台をつくる「聴き合う」教室
- ・特支COから学ぶ特別支援教育(職員会)

取組② 集団不適応を想定した生活の創出

- ・幼保との架け橋教育。遊びを据えた低学年教育
- ・緩やかな4,5月の生活の保障。

ベース2: 「学びに向かう姿勢」の基盤を育む

取組① 生活の3本柱の再確認

- ・「あいさつ」目を合わせ、声を掛け合う関係醸成
- ・「靴そろえ」整頓は心の落ち着きや乱れの現れ
- ・「清掃無言」時や場を大切にする集団と自分育て
- ・児童会活動とつなげた実践と定期的な振り返り

取組② 粘り強さの育成

- ・できるまで粘る子どもと最後まで見届ける教師
- ・「聴き合う」「(自分の言葉で)丁寧に書く」「読む」ことの日常化・習慣化